



今月の話題：新しい変異株の出現，拡散が報じられている．新型コロナウイルスとの関係は古い表現だが，いたちごっこの感があり，ウィズ・コロナの対応が宜しいかと思われる．この機会に多方面の専門家の見解を得て，学習できたことが多かった．外出の機会が減り，読書して時を過ごす事が多く，熟考の時も得た．(伊藤誠三)

□ 本部便り：(金森捷三郎 記)

- ・「12月1日よりサツ事務所の運営を通常通りと致します．事務所の当番に当られる方には大変ご苦勞様です．
- ・拡大理事は12月8日(水)，資料の提出期限は12月1日(水)です．
- ・今年はサツの全体忘年会はありませんが来年の総会(2月下旬)の懇親会の無事開催を期待しております．

□ 建築部会：(岡本直 記)

- ・日本を含め多くの国が2050年カーボンニュートラルを宣言しているが，この極めて高い目標達成には，抜本的な対策が必要である．建築においては，省エネ化と並んで，鉄やコンクリート等の建設資材の省資源化を図ることは重要な課題となる．その手段として，一つは建物をできるだけ長く使う(長寿命化)，もう一つは解体時の廃材のリユースを可能にして再資源化を図ることである．解体時のコンクリート塊は，道路や排水溝，敷石等に再利用されているが，さらにコンクリート廃材から再生骨材とリサイクルセメントをつくり出す技術の実用化も望まれる．サツは新技術の研究に直接，携わることは難しいにしても，いかにして建物の長寿命化を可能にできるか，また，いかにしてリユース材を有効活用できるか，ベテラン技術者が知恵を絞って考え方を提案，実践せねばならない時であると思う．

○次回建築部会12月13日(月)17:30~19:00 (zoom)

□ 戸建住宅部会：(阿部市郎 記)

- ・11月戸建住宅部会は2021年11月18日(木)16時~17時30分，会議室とZoomにより開催．出席者13名．

1, 技術支援事業

- ・木造住宅合理化システム普及協会事務局業務，今期末の業務終息に向けて，木造住宅合理化システム普及協会活動記録を作成中である．

- ・タウンハウス技術支援：GT南桜井タウンハウス大規模改修支援 担当・岡野泰三氏11月8日現在，工事は順調に進捗している．年内18号棟/22棟中まで完了予定．年内に足場撤去予定．工期は令和4年3月末日．

- ・ウッドランド辰巳台第4回中大規模改修支援 (PM小藤常務，実務・小須田，大江氏)：10月16日第40回大規模修繕専門委員会が開催され，サツは感謝状を受領．

- ・タウンハウス稲毛：長期修繕計画支援(担当 同上) 居住者向けアンケート実施，11月21日，結果報告予定．

2, 調査研究事業：・林野庁補助事業「CLT, LVL等の建築物への利用環境整備事業のうちCLT建築物等の設計者育成事業」

- 企画開発・設計者等のための「CLT WEB講座」2021…本年度予定であったWEB配信用建物の現地及び設計者等の収録は，みやこ下地島空港ターミナルを除き全て完了し，今後編集の後，年末までに全物件の配信ができるまでとなった．講座申し込み状況，11月22日現在，339人の受講申込み．事例配信…1, 津山信用金庫勝山支店，2, ジオホテル Ento Annex NEST(島根県海士町のホテル) 3, 高知学園大学・短期大学8号館，4, 宮崎県防災庁舎．いづれも昨年に勝る木の質感とボリュームの訴求力のある魅力的な事例紹介である．

- ・戸建住宅部会各位へのごお願い…本事業のリーフレット

を作成したので，各方面に周知をお願いします．また，受講申込みはサツホームページに掲載の案内による．

- ・令和3年度林野庁補助事業「木材産業・木造建築活性化対策のうち，大径化した原木等を生かした利用の拡大」について，種々の検討課題の実施を開始した．製材実証については北海道産カラマツを例として，製材，物性試験を計画中で，11月25日，関係者立会いの下，製品検品，試験打合せの予定である．

○次回部会予定：12月16日(木)16時~17時30分

□ 集合住宅部会：(小畑晴治 記)

- ・新型コロナウイルス感染症の劇的と感じられるほどの収束も，また新たな変異株で暗雲が漂い始めた状況下であるが，日本にとっては“ポストコロナ時代の社会経済の持続可能性”を真剣に見据えた取組こそが，建設・建築の業界にとっても喫緊の課題であるはずと感じる．オフィス床需要の急低下の中で行われている「ビル床増産前提の巨大開発」や「どう考えても地球環境にも巨大災害にも問題の残るタワーマンション建設」を容認するようなことでよいのかと心配で仕方がない．偶然のきっかけで，千葉外房の(リゾート)マンションの実態調査支援の業務を集合住宅部会で手伝える(2日間)ことになり，大変興味深く対応検討中である．

- ・9月の寺子屋講座(住み慣れたマンション・団地で“安心の暮らし”を考える)については，十数名の方からご評価のコメントを頂いたが，相談対応等の業務機会創出に至らず，建築や集合住宅づくりの専門的技術やノウハウからの経験や知見からの提案だけでは，“管理組合としてのまとまり”での動きまでは促せないと痛感した．

□ マンション管理組合支援事業部：(丸山和郎 記)

- ・緊急事態宣言解除後，年内終了予定物件のうち，パークハウス本郷真砂とファミリー春日部式番館が来年3月まで延期．この2件の今期決算ずれ，そのほか受託予定案件契約ずれ等による予定差益が130万円ほど縮小．

- ・「長期優良住宅化リフォーム推進事業」の申請支援業務の展開と今後の不安要素：スカイビュー戸塚(国交省の「長期優良住宅化リフォーム推進事業」に大規模修繕工事を組み合わせた支援業務R3年7月~R5年4月)の第1段階の事前検討作業と，この事前検討作業内容の報告説明会が11月に終わり，12月から大規模修繕工事実施設計業務と並行して次の段階の省エネ計算業務へと移行してゆく．さらに来期はライオンズガーデン百合丘も大規模修繕工事と抱き合わせの「長期優良住宅化リフォーム推進事業」の申請支援業務が予定されており，3年越しのプロジェクトとなる．新型コロナウイルス禍に端を発した石油供給不足に伴う建設資材や労務費の値上がりのほか，材料・部品調達の遅れなどが懸念される．今後半年間，実施設計段階でのコストプランニングでは，物価変動と材料調達に細心の留意を払いながら工事予算編成を中心とするプロジェクトマネジメントを続けなければなるまい．

○次回部会予定：3月1日(火)16:00~18:00

□ 建築技術誌2022年1月号(12月17日発売)

- ・松本年史：モンゴル国の森林荒廃木を利用した～提案
- ・坂本 功：10/23 サツ寺子屋講習の報告(1)

□ 余滴： 高層に登れば富士に冬日落つ 捷三郎